

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和4年度 第3回就労支援部会 会議録

日時 令和4年10月31日(月) 13:30~16:00

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 16名

就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス、就労支援センターカメリア、乙訓若竹苑、京都府立向日が丘支援学校(2)、京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、乙訓やよい会、乙訓の障がい者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課(3)、長岡京市障がい福祉課(2)、大山崎町福祉課

欠席者 1名

乙訓青年会議所

事務局 3名

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・庁内実習報告会(案)
- ・タイムスケジュールと分担表
- ・令和4年度「福祉就労から企業就労へ」 アンケートのお願い
- ・新聞記事～乙訓ミニ企業交流会・障害者の就労支援考えよう～
- ・向陵会が龍谷大と連携 キャンパスカフェが拠点

議事概要

1 今年度庁内実習状況について

副部長・前回の就労支援部会以降の動きについて、長岡京市役所での庁内実習と長岡京市役所の庁内実習に申し込まれたが人数の加減で長岡京市商工会で実習をされた2件の報告をお願いしたい。

- 委員
- ・長岡京市の庁内実習は10月18日から20日までの3日間、支援学校の卒業生で20代の男女1名ずつの2名に来ていただいた。時間は10時から15時、お昼休憩あり。
 - ・予定していた作業は障害福祉サービスの受給者証関係の作成作業、障害支援区分の更新の際に主治医に渡す意見書のセッティング作業や市民の方が提出したものの受付をしていただいた。これら以外にも色々していただいたが、思っていた以上にスピードも速かった。
 - ・個室を用意していたが市役所の雰囲気を楽しんでいただこうと、窓口の近くの席に座っても

らい作業をしていただいた。作業は1時間に1回ぐらいのタイミングでできあがれば声をかけていただくことにしていたが、最終日の3日目には電話の内線を使っていた。実習生は疲れたように思うが、こちらは充実した研修になったように思っている。

副部長・長岡京市には3年待たれた2名が実習に行っている。実習できたということで、今後の糧にもなれると思う。商工会についても報告をお願いしたい。

委員 ・商工会では900件分の会員向け会報の封入をさせていただいた。3人で分担をし、どのような流れ作業でやれば良いのか考えながらさせていただいた。皆、根気よくやっていた。11月にもう一度あるのでやってみないかと誘われ、3名中2名が11月に再度取り組むことになっている。

副部長・商工会も担当者が代わり、対応される方もうまく対応ができるのか、意向に沿えるのか等、不安を感じていたようだが、3人の実習生が一生懸命に作業をされ、前向きな姿に今後でもできること(場の提供等)をさせていただけたらと聞いている。今後必要があれば受けくださりそうな所感を持っている。

委員 ・保健所は9月に受けている。これまで清掃等の作業をやっていた方で、事務をやりたいということだったので申請書類の封入作業をしていただいた。途中で間違いがないかの確認もしてくれた。皆さんに挨拶するという目標もあり、最初に所内で挨拶をしてもらった。良い経験をしていただいたと思っている。水のりでの貼り付け作業が難しいとおっしゃっていた。

部長 ・年内に乙訓教育局での実習が入る形になる。

副部長・大山崎町も12月に実習を受けてもらう。

部長 ・今年度はそれで終了となる。

委員 ・実習を受けて、評価をするのだが、この評価表が元々は就労系のサービスを基準に作っていると思う。付きっきりでないと評価ができない項目がある。来年度に向けて変更等ができればと思う。

副部長・次年度に向けて、修正していきたいと思う。

部長 ・評価しにくかった項目はどこだろうか。

委員 ・作業力の項目が7つあり、変化への対応や危険への対処等が細かくあるのだが、そういったところをもっとシンプルな形にしても良いと思う。本人が見た時にわかりやすいものになったら良いように思う。来年度に向けて作成していくのであれば、一緒に考えていけたらと思う。

委員 ・どう評価しようか悩むところはあった。簡略化、スリムな形にした方が良いかと思う。内容の検討に協力したいと思う。

副部長・評価してくれた方から一般就労へのアドバイスを特記事項に書いてくれた方がいた。アドバイスや一言を、特記事項ではなく書ける欄があれば良いように感じた。

部長 ・次回の部会2週間前までに意見をいただきたい。評価のところの文言の使い方も整理できれば良いかと思う。

事務局 ・受けていただく行政等の方で付きっきりで見ていただく必要はない。付きつきりは庁内実習

のやり方としては良くない。どういう風に支持を与えたら仕事ははかどるのか、障がい特性に応じた指示の与え方をしていけないといけない。わからない時にどうするのか、できたらどうするのかのところまで指示をし、その方がどう動くのかを評価していく方が良いので、そういうところも整理していきたい。

委員 ・実習中に嫌になって隠れていた人がいたことがある。ひとりで進めることを目標としているとか、わからないことは聞きに来れるような人の実習であるようなことを明記しておいても良いかもしれない。

副部長 ・実習要項の中に盛り込んでいても良いかもしれない。

委員 ・実習に来る前に、絶対に一度見学に来てもらった方が良いと言われたことがある。自分でイメージを掴んで、不安を取り除くためにも見学に来てもらった方が良いと。実習要項の中に書く前にある程度、どういう作業をするのか、こういう場所を実習するというような情報を提示したうえで募集するようなやり方を考えても良いのではと思う。動画等の映像でも良い。実習は本人のやる気が一番大事だと思う。できるだけ色々な具体的な情報を与えて、自分は本当にそれをやるのか、やりたいのか、やれるのかを考えさせたうえで実習ができれば良いように思う。

部長 ・募集要項にこういう実習があるとしか書いていないので、前年度にやっていた内容を入れた形で、募集をかけても良いかもしれない。もう少し具体的にイメージがわかりやすい募集の仕方ができればと思う。

委員 ・実習体験者の同意があれば、体験談を載せるのも良いと思う。

部長 ・参考にさせていただきたい。

・「乙訓もも」が実施している就労支援利用者の庁内実習利用について

部長 ・前回、市町の意見を伺いたいというところで終わっていた。いかがだろうか。

委員 ・受け手側として検討をさせてもらったが、対象を広げることには慎重になった方が良いという意見になった。理由としては2点ある。1点目、庁内実習のこれまでの目的として福祉就労から一般就労へチャレンジできる環境を作ることを目的に、これまで庁内実習を実施してきた。受け入れ側としては福祉就労で経験を積まれたうえで、一般就労へのステップアップの場として庁内実習を活用していただけたらという意見が出た。

・2点目、今年度も実習希望者の調整が発生したところで、対象者を増やすと、これまで対象としてきた方が来年行けなくなる可能性も出てくるところがリスクもあるように考えている。

・乙訓ももに限らず、就労継続支援を利用されている方等でステップアップの場として庁内実習を利用したい方がいるのであれば、手はあげていただきたいと考えている。

委員 ・事前に検討し、今言っていた通りである。庁内実習の希望者が多い中で、募集人数よりも多く希望していただいたこともあり、申し込みされた方が行きたいところに行けるのが理想だと思う。受け入れ先の方で受け入れ希望、人数等の拡充をしていった方が良いと思っている。

委員 ・目的と逸れるところがあるように思っている。今でも枠が少ない中で、来たい方が十分に来れ

てはいいないので、今の時点では見合わせた方が良いという意見だった。

委員 ・乙訓ももの若者基礎的就職支援事業は京都府の委託事業であり、それを庁内実習で受けるというのは違う感じがしている。

部会長 ・乙訓もものに登録されていて障害年金、自立支援医療、手帳を持っている方で実習を希望される福祉サービスを使っておられない方が、乙訓もものが推薦機関となり庁内実習をすることは特に問題はないだろうか。

委員 ・懸念点として、あえて乙訓ももの利用者だけをそこに加えることに対して、対外的な説明としてはどうなのかなと考える。どういう整理があるのか、悩ましいところである。

委員 ・地域におられる福祉サービスにかかっていない方が次のステップに行く時に庁内実習を考えられたら、アイリスに登録すれば受けられるのだろうか。

副部会長 ・推薦機関があるところとなっているので、登録されている方であれば受けていただける。

委員 ・市町に病院等にもかかっていない人が相談に来たら、アイリスに相談するのだろうか。

委員 ・基幹相談支援センターはどうだろうか。計画相談もまだ決まっていない、基幹相談支援という色々なことを聞いてもらえる機関があって、そこからの推薦ということであれば、支援につながっていない人が支援につながるきっかけになると思う。基幹から計画相談につなげるということもひとつあるように思う。アイリスもあると思うが基幹という方法もあるように思う。乙訓ももから直には無理かもしれないが、支援につなげたいという思いは支援者としてはあると思うので、そういったところからつながればと思う。

副部会長 ・実習先の受け入れ場所を増やすということについては今回、長岡京市の商工会が受け入れてくれたので、向日市、大山崎町の商工会にも枠を広げていきたいと思っている。

委員 ・ここ3年ぐらい希望者が枠を超えてきている。それだけ必要としてくれている人がいるのだと思うので、広げていくことを考えていきたい。

副部会長 ・今回、庁内実習の報告会をするので、そこで話を聞いて私もと思う人がいるかもしれない。そうやっていてもらいたいと思う。

部会長 ・ここ数年、希望者が予定受入人数を超えていて次年度に回ってもらっている現実もあるので、今拡張するのは現状難しい。基本の枠組みは変えずにいきたいと思う。

2 庁内実習報告会&講演会について

部会長 ・たけのこに講演会の後援をお願いしている。中小企業家同友会に加入されている、しんやさい京都とグラン・ブルーの方に来ていただき、一言お願いしている。

事務局 ・現在申し込みが3名程なので、就労継続支援A型、B型事業所と相談支援事業所に案内を再度出そうと思っている。

委員 ・向日が丘支援学校の保護者の方は対象にはなっていないのだろうか。

事務局 ・学校に掲示をし、声掛けをお願いしている。

部会長 ・靴磨きの希望者はいるだろうか。

- 事務長 ・ 2名おられる。たけのこからの出席確認はどうなっているだろうか。
- 副部会長 ・ 11月に会議の案内をメール送信するので、その時に案内させていただく。
- 部会長 ・ 5年間の庁内実習の取り組みを報告する庁内実習報告会（案）を作成している。
このようなことを話したら良いかと思っている。
- 事務局 ・ 話だけで30分はしんどいと思う。パワーポイントがあったら良いかと思っている。
- 委員 ・ 働いている姿の写真等があれば、良いかもしれない。
- 委員 ・ 文字情報はこちらでお伝えし、写真等を補足で映し出すのが良いかと思う。
- 委員 ・ 人物は無理でも具体的な作業内容がわかるような映像や室内の写真、どういうところで作業をしたのか等があれば報告だけでなく募集の時にも役立てられるよう思う。
- 委員 ・ 場所や、やったことなら後からでも写真が撮れるので、撮ろうかと思う。そういうのがあれば、見た人はわかりやすいかと思う。
- 部会長 ・ パワーポイントは写真等の映像ということにしたいと思う。
・ 報告会（案）の（7）、「この5年間を振り返って」のところで、何かあるだろうか。
- 事務局 ・ 受けた側からの感想もあると思う。受けさせてもらった側からすると、緊張して直ぐに企業実習に行けない生徒たちには事前に丁寧な打ち合わせをした。自分の住んでいる役所がわかり、これからはここで相談にのってもらえるという話もした。次へのステップが踏めたことは良かったように思っている。
- 委員 ・ 受給者証の申請等は高校生までは親がやっているの、自分で行かないといけなくなった時にどこに行くのか、誰に尋ねるのがわからない。その時に、実習に行ったところに実習でお世話になった方がいるからというところでは行きやすいように思う。
・ 全く違う年代の人や、全く知らない人と一緒に仕事をして、同じように頑張っている人がいるというのはすごく刺激になったと思う。良い顔をして帰ってきていた。
- 部会長 ・ 生まれ育った町で実習ができたことは大きいと思う。庁内実習の受け入れがあるというのはすごく大きな効果だと思っている。市役所は申請するだけの場所だと思われていた方が実習で行ったところに行くとなると行きやすくて相談しやすいところになり、その力はここでずっと生活していくためには必要で、市役所は敷居が高くないと感ぜられることは大きかったと思う。
・ 福祉部局以外にも声をかけていただき、障がいのある方の働くところを他の部局の方にも広めていただけたことも大きな効果だと思っている。
- 事務局 ・ 接していただかないと、障がいという言葉だけでイメージが付いているところがある。同じ行政でも違う所轄だと接する機会がなく、そういう意味ではフラットな関係ができたように思う。地域の中で庁内実習を通して関わってもらうことで、よりわかっていただけたことは良かった。
- 委員 ・ 良いステップアップになると思っている。福祉の事業所では事務的な仕事がなく、事務に興味をもっているけれど、企業で実習するにはハードルが高い子ども達にとっては地域の馴染みのある行政でお世話になれるというのは事務仕事がどんなものか体験でき、良いきっかけになっていると思う。障がいのある子ども達がどんな子なのかは直接触れ合ってもらってわかっていただけると思うので、すごく良い機会になっていると思う。
- 部会長 ・ 市役所でも受け入れたこの5年間、何がどう変わったか等が盛り込められたら良いかと思う。
- 委員 ・ 5年間でノウハウ、やり方というのは蓄積されてきている。良いきっかけになれば良いなと思

っている。来年2月に新庁舎に移転し、障がい福祉課も新しい部署になる。新しいところで、また経験を積んでもらえたら良い機会になると思っている。

事務局 ・半数ぐらいの方が就 A 含め一般就労されている。ひとつのステップを踏むことで自信をつけて、次の企業就労へという当初の目的は達しているということでまとめられると思う。

部会長 ・アンケートについては内容を確認していただき、何かあれば後で意見をいただきたい。

3 乙障協とたけのこの連携について

部会長 ・役員会に説明に行ってきた。乙障協は就労継続系だけではないが、役員の中に販売担当という方をおいている。その方を窓口にして、たけのこの連携に努めるという回答をいただいている。今後についてはたけのこの全体会に参加したり、良い情報等があれば情報交換できればと言っていた。

・この数年就 A、就 B の事業所が増えており、乙障協に入っていない施設もある。そこへのアプローチについては乙障協の方で勉強会をする予定があり、そこへ乙障協に加盟していない施設にも声掛けをしアピールしようという話を役員会でされている。就 A、就 B の事業所にも乙障協に入ってもらい、そこを通じて新しい事業所とも連携できるかなという話になっていたので報告させていただく。

4 就労交流会「たけのこ」からの報告について

副部会長 ・10月7日にミニ企業交流会を行った。障がい者雇用をされていない企業が2社、障がい者雇用されている企業1社に出た。参加者は20名定員で21名の希望者があり、当日の参加者は20名だった。お話を聞いていただき、DVDを見て、交流の機会ももっていただいた。笑顔や笑い声もある和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。最初、緊張されていた方も最後には肩の力も抜けて帰っていただけた方もいて、主催者側も嬉しく感じる機会になった。10月に事務局会議を行った。アンケートの中から登壇された企業に見学に行きたいという意見もあり、今後調整をしていければと思っている。

5 今後の部会について

部会長 ・就労支援部会の当初の目的であったことが一定整理できているようなところで、庁内実習は継続し、その部分はプロジェクトとして残し、部会としては一旦閉じる形で考えている。皆さんの意見を聞かせていただきたい。

委員 ・アンケートも取り、圏域の課題も明らかになり、この後どういう風の実像につなげていくかというところでは就労方面はネットワークに投げていけば良いと思っている。

・福祉同士の横の連携のところでは新しい事業所も増えてきている。その辺りも含めどう横並びの連携をとっていくのかなと思っている。コミュニケーションをとる場があり、圏域全体として福祉の方向等が定期的に話ができれば就労支援部会という形ではなくても良いと思う。

部会長 ・就労支援施設同士の横のつながりは、ひとつには乙障協がある。つながりがほしいところはつながっている。つながりを求めているところはつながりを持たれない。施設同士よりも職員同

士でうまくつながっているところもある。それをシステムにのせるのが良いのかどうかというところはある。情報発信や情報収集する場合は乙障協でできていくように思う。

- 委員 ・行政はこういう場がなくなったらどうなのか気になるところはある。
- 委員 ・家族としても同感する。乙訓圏域の就労についての課題や達成をどこで、どう総括されるのかは見える形でほしいし、最新の情報もほしい。それがどういう形かはわからないが、地域を基盤にした情報や目標は2市1町まとめた形でほしいと思っている。
- 委員 ・課題はある程度整理されてきているとは思う。情報をどこで集約するのか等、就労支援部会をなくすにしてもそれをどこに持っていくことになるのかということだと思ふ。
- 部会長 ・一般就労についてはたけのこができたので、そこでの集約になる。福祉就労の工賃アップやアンケートで隣の就労支援事業所はどういう仕事をして、どういう利用者がいて、どこでなにをしているのかがわからないというのが課題で出ていた。そこについては乙障協の中でやってもらうようには伝えている。たけのここと乙障協とが連携することによって、福祉就労から一般就労へという道筋もそこでつながると思っている。
- 委員 ・フィードバックなり継続していけるのであれば、移行していくという方法もあるかと思う。移行していくことは大切だと思う。
- 部会長 ・庁内実習についてはプロジェクトで残していくので、一年ごとに振り返りをしていくことになる。全体会での報告事項にもあがってくるので、見ることはできる。
- 委員 ・つなぐ先があれば、一定整理もできたということで終了できると思う。
- 事務局 ・就労支援部会には福祉関係者しか来ない場になっている。就労についての課題抽出をして圏域の中で話をしていくのであれば、企業が来ていないと話にならないところで、たけのこネットワークが動いているのでそこに持って行けばどうかということである。
- 副部会長 ・プロジェクトにするなら庁内実習プロジェクトではなく、もう少し違うネーミングが良いように思う。庁内実習プロジェクトでは庁内実習のためのプロジェクトのようで、他の検討がしにくくなれば嫌だなと思う。
- 委員 ・全くなくすのはもったいないように感じる。必要なことはある。
- 部会長 ・プロジェクトはコンパクトにはなるが、機動性はあがってくると思う。今日だけでは結論は出ないと思う。次回の部会でもう少し整理した意見を聞かせていただきたい。

6 その他

- 事務局 ・新聞記事だが副部会長から報告のあった乙訓ミニ企業交流会の記事と、障害者の就労支援を考えようということで京都市で講演会がされた記事を配っている。「向陵会が龍谷大」と連携という記事は12月8日に予定している講演会の内容に関係するので読んでおいてもらえたらと思う。「カフェ樹林」との関わりで、学生の気持ちに変化しているというところがあり、大学側も喜んでいと聞いている。
- 委員 ・第1回の障がい者の就職面接会を無事開催することができた。今回は完全予約制でさせていただいた。欠席は1名ぐらいで、273名程の方が面接に来られた。実際に就職まで決まった方もいる。京都七条公共職業安定所の相談室では133名の方に参加していただき、その内227件の面接、複数で面接を受けていただいた。最高で5社の面接をされた方がいたようで、非常に積極

的に面接を受けていただき、良かったと思っている。就職が決まった方については定着支援をお願いしたいと思っている。2回目の面接会については場所を確認したことは聞いている。日程は決まり次第お知らせしたいと思う。

・京都府の最低賃金に変更になり、10月9日から時間額968円になった。最大のアップ率で31円のアップになる。お知らせさせていただく。

・前回もお話した障害者雇用率だが、まだ具体的には決まっていない。10時間から20時間の間の精神障がい者等については、0.5人として雇用された場合はカウントすること等は法律化するのではないかと聞いている。こちらでも決まり次第お話させていただく。

・9月の求人倍率が出た。京都府の有効求人倍率は1.23倍で8月と同じぐらいである。全国の有効求人倍率は1.34であり、京都府は低い状態である。求人の数は増えているが求職者が減らない状態が続いているため、倍率が変わってこなかったということがあのように思う。

部会長 ・第3回の部会を終了する。お疲れさまでした。

次回 1月17日(火) 13時半から